



講師・パネリスト
韓敏 (はん・みん)
 総合研究大学院大学・国立民族学博物館准教授
 中国出身



パネリスト
仁井テリー (にい・てりー)
 (有)KNT代表、人材開発コンサルタント
 米国出身



パネリスト
裴安 (ぺい・あん)
 かながわ外国人すまいサポートセンター理事長
 在日コリアン2世



パネリスト
山下明良 (やました・あきら)
 横浜銀行広報IR室長

コーディネーター

林義亮 (はやし・よしあき)
 神奈川新聞論説副主幹兼編集委員

フォーラム
実り多い未来へ
 ～世界のワーク・ライフ・バランス～

女性も男性も、生き生きと働き、暮らせる社会は
 どんなふう to 築いていけるのでしょうか？
 異なる文化的背景を持つパネリストの眼を通して見た
 日本社会とワーク・ライフ・バランスについて
 男女共同参画社会に向けて考えます。
 日本では仕事と生活のバランスに多くの課題があり
 2007年に政府の主導により策定された
 「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」では
 大きな方向性として、国民の就労による経済的自立
 健康で豊かな生活のための時間の確保
 多様な働き方・生き方、を目指すとされています。

2009年10月31日(土)
 14:00～16:30

あーすぷらざ
 5F 映像ホール

横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 JR根岸線本郷台駅改札出て左手すぐ

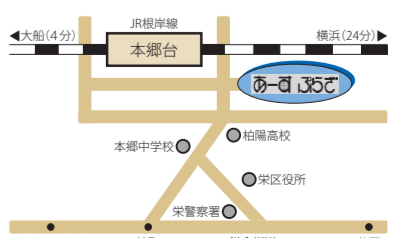
参加費／無料

事前申込制・定員140名

※下記お問い合わせ先へ10月30日(金)までにFAXまたはE-mailにてお名前・ご住所・お電話番号を明記の上お申送ください

主催＝国立大学法人 総合研究大学院大学／財団法人 かながわ国際交流財団／神奈川県 後援＝神奈川新聞社

お問い合わせ＝総合研究大学院大学総務課広報係 TEL:046-858-1590 FAX:046-858-1542 E-mail:event@ml.soken.ac.jp





韓敏 (はん・みん)

総合研究大学院大学・国立民族学博物館准教授。中国吉林省出身。吉林大学外国語学部卒業。東京大学大学院総合文化研究科修了(文化人類学、学術博士)。東洋英和女学院大学助教授などを経て、2000年より現職。主に現代中国の人類学的研究に取り組む。著書に『革命の実践と表象—現代中国への人類学的アプローチ』(風響社)、*Social Change and Continuity in a Village in Northern Anhui: China A Response to Revolution and Reform*、などがある。最近では漢族の婚礼の変容について調査、興味深い発表を行なった。

パネリスト



仁井テリー (にい・てりー)

米国カリフォルニア州生まれの人材開発コンサルタント。1979年に米国で大学を卒業し、翌年英会話講師として来日。2000年に(有)KNTを設立。タイプコーチとして、MBTI性格タイプ認識検査を用い、個人の興味・関心を分析して、職業・職場選び支援を行う。「今の仕事が好き！」と思えるよう、キャリアカウンセリングの個人指導とワークショップ実施中。ボランティア活動として英文ミニコミ新聞「湘南ポスト」の編集。神奈川県が設置している「外国籍県民かながわ会議」第4期委員長(2004年~2006年)。ふじさわ人権協議会委員。



裴安 (ぺい・あん)

かながわ外国人すまいサポートセンター理事長。東京都出身の在日コリアン2世。コリア語講師、翻訳、法廷・医療通訳などを仕事とし、ボランティアとしても携わりながら、1998年から外国籍県民かながわ会議第1期委員、第2期副委員長を務めた。上記センターは、この会議の知事への提言からはじまり、外国籍県民の入居支援のために設立された。そのほか、「外国人学校ネットワークかながわ」コーディネーター、「共生のまちづくりネットワークよこはま」代表など、ともに生きる地域、社会を目指しさまざまな活動を展開している。



山下明良 (やました・あきら)

横浜銀行広報IR室長。中央大学商学部卒業後、横浜銀行入社。以降、本牧支店、藤沢支店、神奈川新聞社報道部(出向)、横浜銀行広報室、経営企画部、横須賀支店副支店長などを経て現職。

コーディネーター

林義亮 (はやし・よしあき)

神奈川新聞論説副主幹兼編集委員。1989年神奈川新聞社入社後、県警、川崎、県庁各記者クラブキャップを経るなどして99年報道部副部長兼論説委員、2005年編集委員兼論説委員。09年から現職。

フォーラム
実り多い未来へ
世界のワーク・ライフ・バランス

おじいさんは山へ芝刈りに、おばあさんは川へ洗濯に、と昔話が語りだされるように、日本では古くから外の仕事は男性が、家事や育児は女性が担うものという考え方がありました。男性・女性の役割分担は人類最初の分業ともいわれ、どこの社会でもなんらかの形でおこなわれてきました。

しかし、21世紀に入ったいま、その全面的な見直しの動きが世界中でおこっています。女性と男性がどのように互いを理解しあい、協力して今後の社会を築いていくかは、今日の私たちに課せられた大きな試練ですが、社会生活の公的領域(ワーク)だけでなく、私的領域(プライベート)にも深くかかわるだけに、問題は複雑です。

日本では1999年に男女共同参画基本法が制定されました。女性の就業率は上昇し、社会進出は進みましたが、男女を問わず不安定な非正規労働者が増加し、日本社会の仕事を取りまく環境はむしろ厳しくなっています。そんななかで、2007年には「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」が政府主導で作られました。そこでは性別、年齢、子の有無などにかかわらず、「一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、家庭や地域生活などにおいても、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」を目指すとされています。生涯にわたった仕事と生活の調和であり、そのための社会システムの構築です。

日本の企業などでもその取り組みがおこなわれてきましたが、2008年秋以降の世界同時不況の下で、ワーク・ライフ・バランスが話題にのぼることはすっかり少なくなっています。しかしながら、多くの識者がいうように、この経済的苦境から真に抜け出るのは、私たちの暮らし方や考え方が一変したときだとすれば、いまこそライフ・ワーク・バランスについて論じあうときかもしれません。

このたび、総合研究大学院大学と、かながわ国際交流財団では、中国人の文化人類学者、韓敏さんを大阪からお招きし、神奈川県在住の外国人で、外国籍県民かながわ会議などでも活動されてきた仁井テリーさん、裴安さん、それに横浜銀行広報室の山下明良さんらといっしょに、男女共同参画社会に向けて今後のワーク・ライフ・バランスを国際的に考えるフォーラムを開催いたします。コーディネーターは神奈川新聞社の林義亮さんです。私たちの暮らしの未来を考えるためにも、みなさまお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

2009年10月31日(土)

14:00~16:30

あーすぷらざ
5F 映像ホール

横浜市区小菅ヶ谷1-2-1 JR根岸線本郷台駅改札出て左手すぐ

参加費/無料

事前申込制・定員140名

※下記お問い合わせ先へ10月30日(金)までにFAXまたはE-mailにてお名前・ご住所・お電話番号を明記の上お申込ください

プログラム

13:30 [開場]

14:00 [開会]

14:05 [講演] 韓敏(講師)

14:35 [討論] 仁井テリー・裴安・山下明良・韓敏(パネリスト)

林義亮(コーディネーター)

16:30 [閉会]

